

J A 自己改革推進レポート（J A 鳥取中央） 6月号

（１）新規採用職員がボランティア活動に参加

6月1～2日、倉吉未来中心を主会場として行われた第19回SUN-IN未来ウォークで、本年度の新規採用職員のうち6名がボランティア活動を行った。

地域貢献活動の一環として一昨年から参加しており、職員は各チェックポイントや横断歩道などで笑顔で誘導や声掛けをして一緒に大会を盛り上げた。



（２）生徒向け自転車交通安全教室の開催

6月5日、J A 鳥取中央とJ A 共済連鳥取県本部は、県警察本部倉吉警察署の協力のもと、倉吉北高等学校で「生徒向け自転車交通安全教室」を開催し、全校生徒約290名が参加した。これは交通事故未然防止活動の一環として、(株)倉田プロモーションのスタントマンが危険な自転車走行に伴う様々な交通事故の様子を再現した。迫力のある場面に生徒たちは驚きを隠せず、改めて交通ルールを守ることの重大さと事故の怖さを実感した。

河北支所の福井学支所長は「この活動を通じて地域との連携、絆を深め、交通事故ゼロを目指していく」と述べた。



（３）准組合員説明会の開催

6月11日、准組合員の支所運営委員向け説明会を開き、去る2月に策定した「准組合員にかかる意思反映と運営参画促進要領」を説明した。説明会には新たに運営委員に加わった准組合員26名のうち16名が出席し、主な取り組みとして准組合員のつどい(利用者懇談会等)の開催や、モニター制度の設置計画などを確認した。各取り組みの意見要望は、運営改善に向けた対応を検討し、広報誌などでフィードバックすることとした。

委員からは「准組合員と正組合員の資格や権利の違いを教えてほしい」「J Aの活動をもっと多方面に発信してほしい」などの要望があった。

今後、准組合員に運営参画してもらい、積極的な発言による意思反映こそJ A自己改革につながると期待する。

